



ゆめ半島
千葉国体
2010

国体の記憶 14

選手・裏方としてこれからも

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課(☎20-11503)へ。



茅場 日夫さん(吾妻)

習志野市出身。ライフル射撃で平成10年神奈川県国体、11年熊本国体に出場。昭和51年～平成元年、平成19年・20年に千葉県ライフル射撃協会理事長を務める。平成16年と19年には、成田山新勝寺での「古式砲術演武」を企画・運営した

集中力を研ぎ澄まし、10メートル先、直径0・5ミリメートルの標的と対峙するライフル射撃。わずかな気持ちの揺れが結果となって跳ね返ってくるシビアな競技に40年間魅せられてきた。「何にも増して精神力が重要。それゆえに、射撃は立ってやる禪。立禪」ともいわれるんです。弾を込め、照準を合わせ、引き金を引くという一連の動作の中には、無数の「成功」と「失敗」の要素が詰まっているのだという。高校生から習志野の自宅付近にあった自衛隊演習場に入入りし、20歳から競技としての射撃を始めた。選手として腕を磨く一方、大会の運営にも携わっていた27歳のとき、執行部の思い切った若返り方針により、千葉県ライフル射撃協会の理事長に就任。「理事長としての時間がほとんどで、国体も何度も行きましたが役員・監督として順番が逆になってしまいましたね」と苦笑いするものの、さまざまな人脈を築いたり、身体障がい者の大会も立ち上げるなど得難い経験を積むことができた。

選手として初めて国体の舞台に立つ



石川国体(平成3年)で選手たちと(左端が茅場さん)

たのは、平成10年の神奈川県国体。理事長職を退いて10年、競技を始めてからは実に29年目のことだ。10メートル競技で5位入賞し、翌年の熊本国体では優勝を期待されたが頂点には届かなかった。「足らないものは何か」——あらゆる面から自分の射撃を再構築し直した結果、同年の全日本クラブ対抗選手権を満点日本記録で制覇。理想とする射撃にぐっと近づいた。

昨年まで、再び理事長として来年に迫った千葉県国体の準備に奔走。一段落した現在は、伝統文化としての射撃の継承と選手・人材育成に意欲を燃やす。「射撃は、種子島」がルーツの江戸期に隆盛した伝統文化。成田には全国大会優勝者が4人もいます。そうした素地を次につなげていかなければなりません」。50メートル競技での初タイトル獲得と合わせ、まだまだ挑戦は続く。

編集後記

今年も成田にやって来た国際的なクラシックカーレース“ラ・フェスタ ミツレミア2009”。1997年に始まり、仲町の参道を通り抜けるのは4回目となりました。クラシックカーって持つだけでも大変ですが、4日間も走り続けるとなるとさらに…。また、レースに参加するには運も必要。ただお金があるだけではイ車に巡り合えないし、時間がないと車に乗れず、歳を取り過ぎるとレースに出られない。お金と時間とタイミングがそろってこそレースを楽しめるんですね。長らく不況のせい、参加車両は同じでも、所有者がかわっているのもチラホラ…。



成田市役所本庁舎
(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)
はISO14001の認証登録を受けています。

平成21年11月15日号 No.1159

成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>